

2024 年度事業報告書

2025 年 6 月 1 2 日

一般社団法人日本分析機器工業会

2024 年度 事業報告書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

I. 会員の異動

2024 年度における入会は正会員 3 社、賛助会員 6 社、退会は正会員 2 社、賛助会員 2 社で、2024 年度末現在の会員総数は 164 社となった。(会員の異動については別紙 1 参照)

2024 年度末現在 会員数 164 社 (正会員 94 社、賛助会員 70 社)

II. 総会、理事会等

1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会 2024 年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 開催日時 2024 年 6 月 10 日 (月) 15 時 00 分～16 時 10 分

(2) 開催場所 霞山会館 牡丹の間

東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 1 号 霞が関コモンゲート西館 37 階

(3) 出席会員 78 社 (議決権のある社員数 95 社)

出席社員数 (委任状提出社員を含む) 55 社

書面による議決権行使社員数 23 社

(4) 議長 会長 足立正之

(5) 承認された議案

第 1 号議案 2023 年度事業報告および収支決算書 (案) の承認に関する件

第 2 号議案 理事の補欠選任に関する件

(6) 報告事項

2024 年度事業計画および収支予算に関する件

2. 理事会 (役員名簿: 別紙 2)

(1) 開催状況

第 1 回 2024 年 4 月 19 日 (金) 11 時 30 分～12 時 30 分

第 2 回 2024 年 6 月 10 日 (月) 14 時 00 分～14 時 50 分

第 3 回 2024 年 7 月 12 日 (金) 15 時 30 分～17 時 00 分

第 4 回 休会

第 5 回 2024 年 10 月 10 日 (木) 16 時 00 分～17 時 00 分

第 6 回 2024 年 11 月 22 日 (金) 12 時 00 分～14 時 00 分

第 7 回 2025 年 1 月 14 日 (火) 15 時 30 分～16 時 30 分

第 8 回 2025 年 3 月 14 日 (金) 15 時 30 分～17 時 00 分

臨時理事会 2024 年 6 月 10 日 (月) 16 時 00 分～16 時 10 分

(2) 主な決議事項

(第1回理事会)

- 議題1 2023年度事業報告書(案)および収支決算書(案)承認の件
- 議題2 2024年度定時総会招集および定時総会議案書(案)承認の件
- 議題3 賛助会員入会申込の件
- 議題4 企画戦略会議正副議長交代に伴う選任の件
- 議題5 設立65周年記念事業の実施基本方針の件

(第2回理事会)

- 議題1 賛助会員入会申込の件
- 議題2 協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画改定の件

(第3回理事会)

- 議題1 JASIS2024開催計画(JASISWebexpo2024・JASIS関西2025含む)の件
- 議題2 2024年度JASIS開催に関する覚書締結の件
- 議題3 Informa Markets Malaysia Sdn Bhdとの展示会協力に関する覚書締結の件

(第5回理事会)

- 議題1 賛助会員入会申込の件
- 議題2 常設委員会委員長・副委員長交代に伴う選任の件

(第6回理事会)

- 議題1 2025年代表者懇談会・新年賀詞交換会開催の件
- 議題2 JASIS関西2025開催の件

(第7回理事会)

- 議題1 理事・監事選任スケジュール及び立候補調査実施の件
- 議題2 企画戦略会議委員交代に伴う選任の件
- 議題3 2025年度工業会基本方針及び事業計画の重点について

(第8回理事会)

- 議題1 賛助会員入会申込の件
- 議題2 会員サイト等の一部改修計画の件
- 議題3 2025年度事業計画及び収支予算(案)の件
- 議題4 設立65周年記念事業における優秀従業員表彰、感謝状贈呈、永年勤続事務局職員表彰の対象者について

(臨時理事会)

- 議題1 副会長1名の選定に関する件

3. 2025年新年代表者懇談会

開催日時：2025年1月14日(火)16時40分-17時20分

開催場所：パレスホテル東京 4階芙蓉の間

出席登録者：60名

開催次第：①新年挨拶 会長 足立 正之

②2024年度事業中間報告

工業会の現況 専務理事 松浦 義和

委員会活動報告 企画戦略会議議長 金山 俊彦

4. 2025年 新年賀詞交換会

開催日時：2025年1月14日（火）17時30分～19時00分

開催場所：パレスホテル東京 4階山吹の間

出席登録者：191名

開催次第：①開会挨拶 会長 足立 正之

②来賓挨拶 経済産業省大臣官房審議官 田中 一成

③来賓挨拶 文部科学省大臣官房審議官 高谷 浩樹

④乾杯 副会長 飯泉 謙

Ⅲ. 委員会活動

1. 企画戦略会議

(1) 企画戦略会議開催

- ①2024年度は、企画戦略会議を7回（第6回休会）開催し、理事会に上程する議題の審議を実施した。また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、委員会活動のモニタリングを行い、複数の委員会間で調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。
- ②正副委員長会議を開催し、各委員会が当初計画に沿った活動を行っていることを確認するとともに、各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。
 - ・2023年度事業の報告（2024年度第1回理事会 2024.4.19開催）
 - ・第1回正副委員長会議開催 各委員会事業計画説明・意見交換実施（2024.11.1開催）
 - ・第2回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施（2025.3.21開催）
- ③常設委員会から提出された2025年度事業計画および収支予算（案）について調整し、第8回理事会に上程した。

(2) 展示会企画戦略小委員会

JASIS運営にあたり、企画戦略会議副議長およびJASISに関連する常設委員会委員長等で構成する小委員会を再設置し、概ね5年程度先のJASISの方向性を検討することとして、今年度以下の活動を実施した。

2024年12月26日(木) 事前プレスト実施（検討の方向性、キーワード等についての意見出し）

2025年2月12日(水) 第1回小委員会開催（キックオフ、検討課題・検討体制・検討期間決定）

2025年3月21日(金) 第2回小委員会開催（人材、国際化、国際的製品規制動向について討議）

(3) 調達小委員会

- ①2024年12月2日（月）他 下請法改正についての意見交換（Web会議）
- ②2024年10月17日（木）下請法改正に向けた中小企業庁・公正取引委員会ヒアリング対応（支払条件、買ったたき、物流優越的地位の乱用規制、下請法の適用基準見直し等）
- ③第4回自主行動計画フォローアップ調査実施
- ④事務局において、適正取引推進に関する経済産業省・中小企業庁からの各種情報を随時会員にメールで周知し、JAIMA Webにて「協力企業との適正取引推進」のページを設け、「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」、下請取引関係法令、中小企業施策等を紹介。

(4) 外部向け講習事業の検討

分析機器ユーザ・機器分析初心者を対象とする規格普及・基礎講座他社会ニーズに応じたオンライン講習事業（有料の収益事業）の検討を行うとともに、以下のとおり、JISとして2024年5月に公示された「JIS K 0200 計測分析装置の共通データフォーマット」の講習会を試行的に一部有料で実施した。

・計測分析装置の共通データフォーマット講習会開催実績

講師：早稲田大学一村信吾先生（概論）、九州工業大学安永卓生先生（JIS K 0200 概要）

*第1回 2024年6月19日（水）Web開催 参加者：49名

（後日、フォローアッププログラム（Q&A解説）実施 参加者：20名）

*第2回 2024年8月27日（火）Web開催 参加者：25名

（後日、フォローアッププログラム（Q&A解説）実施 参加者：25名）

*第3回 2024年12月16日（月）Web開催 参加者：54名

※(実践編) MaiMLと各種フォーマットのデータ変換を実現するアプリケーションの実例講習

*第4回 2025年2月5日（水）Web開催 参加者：36名

(5) 設立65周年記念事業の準備

当工業会が2025年8月に設立65周年を迎えることから、飯泉副会長を委員長とする設立65周年記念事業実行委員会を組織し、記念事業の検討、準備を実施した。実行委員会は、2回開催し、記念事業の実施内容の決定、理事会への報告を実施した。

・第1回開催 2024年10月23日（水）（Web会議）

（実行委員会の構成、設立65周年記念事業の実施内容、記念式典の日取り、開催場所、記念講演講師の候補者選定等を検討し、実施内容を決定。）

・第2回開催 2024年12月19日（木）（メール開催）

（記念式典等の開催会場の手配状況、優秀従業員表彰候補者選定の進捗、記念講演演者の決定等事務局における準備状況を報告）

なお、2024年度第8回理事会にて、優秀従業員表彰、感謝状贈呈、永年勤続事務局職員表彰の対象者を決定した。

・実行委員会にて決定した設立65周年記念事業の実施内容は以下のとおり。

開催日・会場：2025年6月12日（木）、東京會館

記念式典・祝賀パーティ開催

優秀従業員表彰、感謝状贈呈（正副委員長）、永年勤続事務局職員表彰実施

記念講演開催（講演者：名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センターセンター長・教授 天野 浩先生）

2. 技術委員会

JASIS コラボレーション企画、海外とのグローバル技術交流、ラボ DXに関する会員支援のための技術調査等、分析機器の手引改訂、分析機器人材育成を中心とする技術普及、ライフサイエンス分野の技術交流等への取組により、分析機器の品質、性能の改善向上および分析技術の開発向上を図ることを目的として、次の事業を実施した。

(1) JASIS コラボレーション企画

JASIS 2024 における新企画として JASIS コラボレーションという名称で他団体主催講演会を企画した。以下、概要。

目的：関連団体のコミュニケーションハブとして、JASIS 展示会に新しい客層を呼び込むきっかけとする。

選定方針：JASIS 展示会の開催趣旨を理解していただき、我々の業界との協力関係を主体的に築きたいという意思のある団体から選定。

主催者団体とコンファレンス概要

団体名	概要	日程
文部科学省研究環境課	共用の場が研究に革新をもたらす ～計測が拓く研究の地平～	9月4日 午前
JSPS設計・計測・解析協調プラットフォーム委員会	第2回公開講演会	9月4日 午後
JST-ERATO 有田リビドームアトラス	第2回 公開シンポジウム	9月5日 全日
JST未来社会創造事業	最先端計測分析技術と研究開発トランスフォーメーションが創る未来像	9月6日 午前
分析化学会 分析イノベーション交流会	交流の輪を広げる分析イノベーションフォーラム	9月6日 午後

(2) 海外とのグローバル技術交流 [RSC-JAIMA Symposium on Analytical Chemistry2024]

2024 年度より、名称を「RSC-JAIMA Symposium on Analytical Chemistry」と変更し、JAIMA と王立科学会(Royal Society of Chemistry, 略称 RSC, 英国)の連携企画であることを明確化した。以下、概要。

日時：2024 年 9 月 5 日-6 日

場所：幕張メッセ国際会議場 2F 国際会議室

テーマ：「Bioanalysis for Personalized Medicine」

参加者：合計 216 名

ポスターセッション：94 名発表（日本人 80 名、外国人 14 名）

JASIS ツアー：海外からの参加者（14 名）に対し展示会ブースツアーを実施。

(3) 技術調査

①JAIMA 外団体・組織との情報・意見交換

JACI（新化学技術推進協会）MI 推進 WG との協議を継続し、ラボワークフローの自動化の中で喫緊の課題となっている固体（粉体）および粘性液体の計量/秤量・記録に焦点を当てて議論。

②トピックスセミナーで 3 講演を企画・実施

JASIS2024 において、次の 3 講演を企画・実施した。

- ・オムロンの目指すラボラトリーオートメーション
- ・サイバーとリアルが融合した研究開発環境における分析・科学機器企業への期待
- ・デジタルラボの水平統合と垂直統合－ISPE Pharma 4.0 と標準化の展望

③JASIS スクエア で LabDX ゾーンを企画

「出展社 6 社+JAIMA」の展示を実施。自動化への関心の高さや、現在の実現困難な部分などについて情報収集を実施した。(JAIMA ブース来場者 174 名)

④三菱ケミカルグループ R&D 変革本部との協業

- ・「ラボラトリ高効率自動化システム」の実現と普及を目的として、LADS を基本とした分析・計測機器の通信・相互運用規格の適用および最適化、並びに普及に関する活動を共同で推進する「協定書」に署名。
- ・2024 年 8 月 29 日に本件についてのプレスリリースを実施。
- ・JASIS2024 の JAIMA 技術委員会ブースにて協業活動内容紹介を実施。

(4) 分析機器の手引改訂

「第 1 章」の和文・英文の新訂作業を一旦完了した。今後、語彙修正等を継続する。

(5) 技術普及

①JAIMA サマーサイエンススクール実施

- ・開催日：2024 年 7 月 25 日(木) 12:10~17:30
- ・参加規模：参加生徒数 50 名
- ・協力企業数は 14 社、使用装置数 18 機種（以下、表参照）
- ・開催場所：日本科学未来館

協力企業数、使用装置数一覧

企業：14社	実習装置：18台+一般向け1台	
アジレント・テクノロジー株式会社	フーリエ変換赤外分光光度計1台・全自動電気泳動システム1台	2
大塚電子株式会社	粒子径測定装置・スマート膜厚計	2
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社	血液型検査装置	1
京都電子工業株式会社	EMS粘度計2台	2
株式会社島津製作所	材料試験機（テクスチャーアナライザー）	1
東亜ディーケーケー株式会社	イオンクロマトグラフ	1
日東精工アナリティック株式会社	自動滴定装置	1
日本電子株式会社	走査電子顕微鏡1台・蛍光X線分析装置1台	2
日本分光株式会社	紫外可視分光光度計2台	2
株式会社日立ハイテック	電子顕微鏡	1
株式会社日立ハイテックサイエンス	ハンドヘルド蛍光X線分析装置	1
株式会社堀場アドバンステクノ	コンパクト TWIN pH計 12台	1
株式会社堀場製作所	蛍光分光装置	1
株式会社リガク	単結晶X線構造解析装置	1

②『早稲田大学講座 素材機器分析評価』実施

2024 年より、春学期と秋学期と合わせて 4 単位に拡大し、実施した。

- ・設置機関：早稲田大学大学院創造理工学研究科
- ・履修学生人数：春学期（78 名）、秋学期（70 名）。（授業回数 28 回）
- ・講義方式：対面講義をオンラインで配信するハイブリッド方式。

③早稲田大学の学生技術研修プログラム認定制度への協力

- ・技術研修プログラム認定を含む早稲田大学との連携と協力に関する包括協定書を締結。
(2024 年 2 月 8 日)

- ・ JASIS 2024 にて包括協定書締結を記念して記念講演会を開催。

開催日時：2024年9月4日（水）14:30～16:25

テーマ：早稲田大学×JAIMA 次世代研究人財育成に向けて

- ・ 技術研修プログラムの第1号認定者が決定され、「技術研修プログラム認定書」授与式が3月4日に開催された。

④丸善出版社企画の教育用分析機器操作動画の制作

- ・ 早稲田大学と連携して、初心者向け「映像で見る分析化学と機器の原理（仮）」を制作。
丸善出版社より2025年5月に販売開始予定。

(6) ライフサイエンス小委員会活動

- ・ JASIS 2024 にて生物工学会とのピッチイベントを実施。
- ・ 生物工学会との連携（共働）を実施。
2年間にわたる生物工学会誌へのバイオ分析機器関連の寄稿(12本)が終了。
- ・ 第76回日本生物工学会大会にて『日本分析機器工業会（JAIMA）会員企業との共働による生物工学の自動化の革新』と題してシンポジウムを実施。
- ・ Pittcon 2025(2025年3月1日～3月5日、ボストン)にて JAIMA Symposium を実施。

3. 環境委員会

分析技術・機器に関する国内外の製品環境規制等への的確な業界対応を目的として、次の事業を実施した。

(1) 環境規制に関する情報収集

- ・ 医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会（呼称：カテゴリ8&9連絡会）に参加して、環境規制に関する情報を収集し環境委員会に共有した。

開催日：第1回 5月27日、第2回 7月23日、第3回 10月30日、第4回 2月5日

委員会活動内容：

- ・ ストックホルム条約の MCCP、長鎖 PFCA 審議状況把握、条約会議へのオブザーバー派遣。

MCCP の使用状況調査

化審法におけるデクロランプラス/UV-328 の審議状況

水俣条約と水銀を含むランプの規制動向

米国メイン州・ミネソタ州 PFAS 規制動向

米国 TSCA PBT 規則の改正

欧州 REACH 芳香族臭素系難燃剤の用途情報収集、PFAS 審議状況

欧州 RoHS 指令 除外規定見直し Pack22 への意見出し

韓国 RoHS タスクフォースの検討

中国 RoHS 改正の動向

- ・ JBCE より欧州動向報告等について情報を入手し、委員会に展開。

REACH 動向、RoHS 動向、エコデザイン規則、電池規則

カテゴリ8&9連絡会参加団体：

JEMIMA, JIMA, JMIF 計工連, JMC 日機輸, JEMA, SEAJ, JFMDA 医機連, NECA, 産業用ガス検知警報器工業会, JAIMA

(2) 環境規制へのロビー活動

1) 規制当局・コンサルタントへの答申、公開意見募集等への対応

①意見書へのエンドース実施

- ・ 欧州 RoHS 指令改正の公開意見募集に対するカテゴリ 8&9 連絡会提出の意見書
- ・ 欧州 REACH 規則 ABFRs(芳香族臭素系難燃剤)の情報募集に対するカテゴリ 8&9 連絡会提出の意見書 (JAIMA 製品でも TBBPA など複数の使用あり。)
- ・ 米国 連邦政府 GSA(General Services Administration) PFAS 削減の情報募集に対する電機電子 4 団体提出の意見書
- ・ 欧州 POPs 規則 デクロランプラス追加案の公開意見募集に対するカテゴリ 8&9 連絡会提出の意見書
- ・ 米国 メイン州の PFAS 規制コンセプト案の意見募集に対する電機電子 4 団体提出の意見書
- ・ 欧州 RoHS 指令の除外規定見直し Pack22 官報案の公開意見募集に対し、欧州アンブレラプロジェクトとカテゴリ 8&9 連絡会提出の意見書

②化審法の NPE の第二種特定化学物質への指定政令案への意見提出

< 提出意見 >

「 α -(ノニルフェニル)- ω -ヒドロキシポリ(オキシエチレン) (別名ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニルエーテル)」は、政令規制用途ではないが分析試薬の一部に使用されている。

2) 日・欧 PFAS ワークショップへの参加

項目	内容
WSタイトル	Workshop on common challenges on PFAS for Japanese and EU companies
開催日時	2024/10/31 14:00~19:00
開催場所	ヨーロッパハウス@東京、南麻布
開催目的	PFAS に関する最新規制検討状況の提供 国際サプライチェーンにおける PFAS 使用の特定、PFAS の代替の難しさ、PFAS 排出を最小限に抑える戦略など、EU による PFAS 規制によって直面する課題について、EU と日本の企業が意見交換可能なフォーラムの作成 革新的な PFAS フリーソリューションと、このテーマに関する進行中の研究活動に関する意見交換
参加者 ※招待制であり、 環境 NGO は含 まれない	欧州規制当局 (欧州委員会 DG GROW) 日本規制当局 (経済産業省) 欧州側産業団体 (上流~下流、カテ89関連含む) 日本側産業団体 (上流~下流、カテ89関連含む)

JAIMA は、JEMIMA、医機連と共にカテゴリ 8&9 製品に関する課題などをプレゼンした。特に分析機器に関する内容として、標準物質の免除や分析手法の標準化の必要性など説明した。

3) 欧州の関係団体・官庁との直接対話

- ・ JBCE/JEMIMA/JAIMA が共同で毎年実施。
- ・ COCIR、MedTechEurope : 環境規制の対応状況について意見交換
- ・ Lighting Europe : RoHS 指令の Hg ランプに関する除外期限延長活動の進め方について意見交換
- ・ DG ENV(環境総局) : RoHS 指令 Pack22 に対するカテゴリ 8 & 9 連絡会の意見を説明
- ・ 英国 DEFRA(環境食糧農村地域省)と GAMBICA(計測測定ラボ機器工業会) : UK の RoHS 法について意見交換

(3) 会員企業への環境規制・標準化関連の情報提供

①カテゴリ 8&9 連絡会の環境セミナーの共同開催

日時：2025年2月6日

テーマ：化学物質管理政策の国際的な潮流と日本の対応 経産省

エコデザイン規則の最新動向 サステナブルビジネス研究所

PFAS 規制の欧米最新動向 日本フルオロケミカルプロダクト協議会

中国、アジア諸国の RoHS 類似規制の最新動向 JETRO 北京

欧州の製品環境規制最新動向 在欧日系ビジネス協議会(JBCE)

パネルディスカッション『どうする？増える新規規制物質への対応！～POPs 物質の対応・米国 PFAS 報告事例紹介～』に JAIMA から登壇

②会員の困りごとの議論、FAQ 化

- ・インド Plastic Waste 法の解釈
- ・電池規則の対応
- ・安衛法の規制物質対応
- ・POPs 規則 第4条(2) (免除措置) のガイダンス
- ・EU 包装・包装廃棄物規則について
- ・韓国 RoHS 適用範囲拡大について
- ・インド E-Waste のリサイクルについて
- ・EU 電池規則の含有制限の解釈について

③6月委員会と12月委員会を標準化委員会と合同開催

標準化委員会と環境委員会を同日相互開催し質問、意見交換を実施。経済産業省産業機械課、CERI(化学物質評価研究機構)、JECTEC(電線総合技術センター)などの外部有識者も参加。

- ・IEC TC111 で進行中の分析標準化の動向
- ・製品中の MCCP の含有部位
- ・米国 TSCA PBT 規則改正案の解釈
- ・委員向け講演「含有化学物質の社内管理のい・ろ・は」の実施

(4) JASIS 企画への参画

<JASIS 2024>

- ・JASIS トピックスセミナー：「世界に広がる化学物質規制の最新動向」をテーマに、3つの講演実施。
 - ストックホルム条約の動向 経済産業省
 - PFAS 規制動向 FCJ (日本フルオロケミカルプロダクト協議会)
 - 欧州環境規制の動向 JBCE (在欧日系ビジネス協議会)

- ・JASIS School：「製品含有化学物質規制対応のための社内管理のい・ろ・は」

<JASIS 関西 2025> 標準化委員会と共同提案

- ・「IEC 62321 シリーズ分析国際規格の最新動向」をテーマに、3つの講演実施。

<JASIS 2025 準備>

- ・JASIS 2025 トピックスセミナーで環境規制の講演を企画中。
- ・JASIS 2025 JASIS School で初心者向け環境規制セミナーを企画中。

4. 標準化委員会

分析技術・機器に関するビジネス戦略志向の標準化活動の推進により分析機器産業の競争力強化や産業発展を図ることを目的として次の事業を実施した。

(1) 産業標準化に関する情報の収集及び提供

①標準化情報共有

- ・定例委員会を隔月で開催し、委員会活動状況及び標準化に関する情報共有を行った。(2024年4月17日、6月20日*、8月22日、10月24日、12月19日*、2025年2月27日；計6回、*6月20日と12月19日は環境委員会との合同委員会)

②JAIMA 標準化セミナー

- ・JASIS 及び JASIS 関西で下記セミナー開催を支援した。
 - ✓ 日本薬局方セミナー (JASIS 2024 トピックスセミナー, JASIS 関西 2025 トピックスセミナー)
 - ✓ 「標準化戦略とは何か」(JASIS 2024 JASIS School)
 - ✓ 「IEC62321 シリーズ分析国際規格の最新動向」(JASIS 関西 2025 トピックスセミナー) *
*環境委員会との合同支援
- ・昨年に引き続き、日本薬局方/一般試験法 9.62 計量器・用器 (第十八改正第二追補) に関する個別セミナーを開催した。(主催および講師：標準化委員会・質量測定分科会)
 - ✓ 富山県薬事総合研究開発センター (2025年3月10日、オンライン)

(2) ビジネス戦略志向の標準化活動の推進企画立案・実行、会員の支援

1) 新規ISO規格提案活動

①「計測分析装置の共通データフォーマット」に関する国際標準化

[経済産業省予算：国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費戦略的国際標準化加速事業，産業基盤分野に係る国際標準開発活動]

- ・3年事業の初年度にあたり、共通データフォーマットの理解、エキスパート候補の探索を目的としたラウンドロビン試験 (RRT) を実施。RRT は VAMAS の枠組みを利用して実施。
- ・2024年11月に開催された ISO/TC201/SC3 (Data Management and Treatment) 総会で規格提案の概要、RRT 実施計画を報告し、来年度の総会で RRT の進捗報告を行うことが決議された。

②「異なる顕微測定装置間における同一箇所分析のための位置合わせ手順」に関する国際標準化

[経済産業省予算：国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費戦略的国際標準化加速事業，産業基盤分野に係る国際標準開発活動]

- ・3年事業の2年度目にあたり、1回目の RRT にて $2\mu\text{m}$ 以下での位置合わせを評価し 2024年11月の ISO/TC 201/SC2 (General Procedure) で RRT 実施状況と2回目の RRT 実施計画を報告した。
- ・ISO/TC 201/SC2 において、来年度 (最終年度) の総会で RRT 結果を報告するとともに、総会前に新規業務項目提案 (NP 提案) の提出を行うことが決議された。

③ JIS K0200 「計測分析装置の分析データ共通フォーマット」の普及啓発活動

- ・①の国際標準化と並行して、昨年公示された JIS K0200 の国内普及及び活用促進を目的とした専用 Web サイト開設による情報発信及び講習会 (計4回) を実施した。

2) 会員企業の提案等による日本規格協会（JSA）公募提案事業

① JIS K0139「レーザーアブレーション誘導結合プラズマスペクトロメトリー通則」の JIS 原案作成事業（新規制定）

- ・2024 年度 JSA 公募制度（区分 C）に応募し採択され、2024 年 11 月～2025 年 3 月にかけて 4 回の委員会を開催した。3 月に JSA に成果物を提出した。

(3) 分析関連規格・国際標準等の普及（維持・改正）

① JIS K0124「高速液体クロマトグラフィー通則」の JIS 原案作成事業（改正）

- ・合計で 4 回の委員会を開催し、2024 年 9 月に成果物を JSA に提出した。

② JIS K0121「原子吸光分析通則」の JIS 原案作成事業（改正）

- ・2025 年度区分 A に応募し採択された。2025 年 5 月に第 1 回委員会開催を予定。

(4) ISO/IEC 国内審議委員会、他団体 JIS 原案作成委員会等への委員派遣

① JIS 原案作成委員会

- ・下記の委員会で進めていた規格（改正）が告示された。派遣終了。
 - ✓ JIS K 0102 体系整備検討・原案作成委員会
 - ✓ JIS K 7122 プラスチックの転移熱測定方法 JIS 原案作成委員会
- ・JIS K0102 は第 3 部の改正検討が早々に開始され、新たに委員を派遣した。
- ・JIS K 0170 流れ分析法による水質試験方法に委員派遣中（継続）。

② ISO/IEC 国内審議委員会委員

- ・11 委員会に委員派遣中（継続）。
- ・ISO/TC147（水質）に新たに WG85 が発足したことを受け、国内にその対応を目的とした研究会が発足した。委員を派遣した。

③ 日本薬局方原案検討委員会

- ・理化学試験法委員会、物性試験法委員会及び天秤 WG に委員派遣中（継続）

④ 日本産業標準調査会 化学・環境技術専門委員会（継続派遣）

⑤ 下水試験方法改訂調査専門委員会 水質・汚泥試験小委員会（継続派遣）

⑥ ヘリウムガス供給不足等を踏まえた大気・排出ガス分析法検討会

- ・2024 年度は委員会開催されなかった、派遣は一旦終了とした。

⑦ JSA 産業標準作成委員会（継続派遣）

(5) 計量法審議に関する協力

- ・経済産業省計量行政審議会計量標準部会に委員を継続派遣。
- ・国際法定計量調査研究委員会 環境・分析計量器作業委員会に委員を継続派遣。
- ・標準物質認証委員会（産業技術総合研究所）に委員を継続派遣。

5. 労務委員会

労働法制の改正、働き方改革や、物価上昇に伴う賃上げ要請への対応など工業会会員が共通に直面する人事・労務の課題に対応することを目的として、(1)主要労働条件に関する調査・研究、(2)会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催、(3)トピックス的情報交換、(4)異業種交流会を実施した。

(1) 主要労働条件に関する調査・研究

合計 6 回の労務委員会をオンラインと対面のハイブリットで開催し、人事・賃金制度、労働時間制度、定年退職・定年後再雇用等主要労働条件に関する調査や対応等について情報交換を実施した。

○第 1 回労務委員会 (2024.5.17)

- ① 賃上げ・夏季賞与の状況調査
- ② 2024 年度の委員会活動の進め方について
- ③ 社員勤続表彰制度について

○第 2 回労務委員会 (2024.7.25)

- ④ 人事労務セミナー・異業種交流会の実施テーマについて意見交換
- ⑤ ンターンシップ実施状況、参加学生への処遇について
- ⑥ 営業手当、インセンティブについて

○第 3 回労務委員会 (2024.9.5)

- ⑦ 異業種交流会について
- ⑧ 人事労務セミナーについて
- ⑨ テレワークの実施状況について
- ⑩ マイカーの業務利用について

○第 4 回労務委員会 (2024.11.14)

- ⑪ 異業種交流会実施準備
- ⑫ 人事労務セミナー開催準備
- ⑬ 「分析機器製造業高齢者雇用推進の手引き」の取扱いについて

○第 5 回労務委員会 (2025.1.23)

- ⑭ 冬季賞与の動向報告
- ⑮ 来季の賃上げの取扱いについて
- ⑯ 作業着等の更衣時間の労働時間への組み入れについて
- ⑰ 管理職降格制度について
- ⑱ JASIS に来場する学生への接遇について

○第 6 回労務委員会 (2025.3.18)

- ⑲ 来年度の実施計画と委員会開催日程
- ⑳ JASIS における学生誘致検討についての意見交換
展示会企画戦略小委員会との連携

(2) 会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催

JAIMA 会員企業の人事労務担当者を中心に、その他幅広く参加を募り、講演会（セミナー）を実施した。参加者 16 名であった。

日 時：2025 年 1 月 23 日(木)16：00 ～17：00

場 所：オンライン/対面ハイブリット開催

演 題：「シニア社員を戦力化する人事管理」

講 師：学習院大学名誉教授 学習院さくらアカデミー長 今野浩一郎 先生

参加者：JAIMA 会員企業の人事労務担当者およびその他の従業員

講演内容：

- ① 高齢労働者をめぐる労働市場の概況

- ② シニア社員の戦力化に向けた人事管理の構築～会社の進むべき方向～
- ③ シニア社員に「求めること」
- ④ 定年延長について

(3) トピックス的信息交換実施

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し、随時、メールで労務委員間の情報交換、意見交換を行なった。

- ① 社宅・手当・日当関係について
- ② 新卒採用における職種別採用について
- ③ サービス・フィールドエンジニアなどの外勤者の長時間労働対策について
- ④ 資格手当の支給状況について

(4) 異業種交流会

女性活躍・ダイバーシティ推進について先進的に取り組んでいる井村屋グループ株式会社を訪問し、具体的な運用や波及効果等の説明を受けるとともに、JAIMA 会員企業人事担当者との活発な意見交換を行った。

目的：女性活躍・ダイバーシティ推進の取り組みについての情報収集、意見交換

日程：2024年11月29日（金）

参加者：8名

訪問先：井村屋グループ株式会社 執行役員 HR 室長 平田裕一様

HR 室室長代理 佐野高史様

HR 室室長代理 松田瞳様

6. 知的財産委員会

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を推進することを目的として、次の調査活動及び情報交換を実施した。

(1) 分析機器に関する知的財産権関連情報交換

① 知的財産委員会（本委員会）

知的財産委員会（本委員会）を5回開催し、会員企業間の有用な知財関連情報の交換を実施。

- 1) 第1回知財委員会：年間の活動計画を策定
- 2) 第2回知財委員会：日立製作所 小林様 飛澤様による講演会を実施
- 3) 第3回知財委員会：株式会社東京大学 TLO 本田様による講演会を実施
- 4) 第4回知財委員会：特許庁の特許・意匠・商標担当の審査官/審判官との交流会を実施
- 5) 第5回知財委員会：本年度の振り返り、小委員会（特許・商標）の報告会を実施

② 小委員会活動

実務調査小委員会、商標小委員会を設置し、特許に加えて商標の調査・研究活動を行った。

- 1) 実務調査小委員会では、全11回の会合を開催し、AIの知財業務活用に関する事例研究を行い、第5回知財委員会でその成果を発表した。
- 2) 商標小委員会では、全4回の会合を開催し、商標調査、商標権利化・更新、商標涉外・係争に関する実務に関する議論・情報交換および、(株)アシックスと商標に関して意見交換会を実施した。また、第5回知財委員会でその成果を発表した。

(2) 知的財産権に係る行政機関（特許庁）との交流・情報交換

特許庁審査官等を招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を実施した。昨年度に引き続き、対面および Web 参加を併用したハイブリッド開催により、特許庁側 20 名（特許、審判官、意匠、商標：主に審査官）、委員会側 19 名が参加して実施した。特許庁の施策・取組や、特許、審判、商標、意匠の審査実務に関して活発な意見交換がなされた。

(3) 知的財産権講演会開催

①日立製作所 小林様 飛澤様による講演会

「OSS に対する日立知財部の取り組み」と題して、OSS の基本・最新情勢や日立のユニークな OSS への取り組みについてご講演頂いた。（第 2 回知財委員会）

②株式会社東京大学 TLO 本田様による講演会

「東京大学 TLO の技術移転の現状―産学共創を推進するための知財の役割―」と題して、技術移転の取り組みやアカデミアに対する技術移転の意義に関して成功例を交えてご講演頂いた。（第 3 回知財委員会）

7. 国際委員会

海外のネットワーク強化とビジネス連携の強化、新たな社会課題に対応した活動強化、輸出管理・国際協力、中堅若手人材育成ワークショップ開催を中心に諸活動を実施した。

(1) 海外のネットワーク強化とビジネス連携の強化

1) JASIS2025 海外 MOU 団体来日と展示会参加

JASIS2025 の機会を活用し、Pittcon、ADLA（米国）、中国分析測定協会、中国儀器信息网、IAIA（インド）、VINALAB（ベトナム）、RNDIA（韓国）との交流を実施。また、Informa（マレーシア、インドネシア）との交流を通じ、アジアの展示会との参加交流を実施。

2) 米国 MRS (Material Research Society) 学会とのネットワーク構築

2024 年 12 月に米国で開催された米国 MRS 学会に委員を派遣し、学会ネットワークや構築、東京大学染谷先生との連携を図り、JASIS2025 セミナーへの協力要請と 2026 年 MRS 学会（ボストン）でのシンポジウムの提案を実施。

3) 台湾工業技術研究院 (ITRI) との連携

半導体材料解析技術をトピックスとして、JASIS2025 でのセミナー及び現地ワークショップの開催準備を実施。

4) タイ シンポジウム開催

①第 6 回タイシンポジウム開催

2024 年 11 月 15 日にチュラロンコン大学で環境汚染対策をテーマとして第 6 回タイシンポジウムを開催。（会場参加 70 名、オンライン 30 名）

（講演内容）

- ・タイ PCD /天然資源・環境省公害管理局:“Air Quality Management in Thailand”
- ・カセサート大学:“Application of Micrometeorology and Tall Tower on Air Pollution in Urban”
- ・泰日経済技術振興協会:“Decarbonization project and education and training program by TPA”
- ・JICA:“Sustainable management of PM2.5 Prevention and Measurers”

・福岡県：“Environmental Pollution Control by Local Governments in Japan”

②第7回タイシンポジウムの開催準備

NSTDA（タイ国立科学技術開発庁）NANOTEC・NECTEC とナノテクノロジー・カーボンニュートラルをトピックスとするセミナー開催の準備を実施。（2025年11月開催予定）

5) Pittcon2025 出展参加

2025年3月3日～5日に開催された Pittcon2025 にミッションを派遣し、海外 MOU 団体（米国、中国、インド、韓国）との意見交換を実施。IBO（Instrument Business Outlook）の足立会長インタビューにも対応。

JASIS2025 への出展誘導活動（JSIA とのブースシェアリング）実施。

6) 第4回日中科学者フォーラム(生薬、漢方薬、化粧品)

※6,500名の聴講（中国国内）

「漢方薬・中薬の基礎と、その有効性・安全性確保のための分析」

名古屋市立大学 牧野利明先生

「化粧品中の元素不純物をどう管理するか～最近の動向と分析法の選び方～」

日本食品分析センター 童霖様

7) 海外情報発信

LinkedIn 広報委員会との協力で2週間毎のMTGと定期的な情報発信。（フォロワー数571名）

(2) 新たな社会課題に対応した活動の強化

JASIS 2025 に向けスタートアップ企業招聘活動実施。（経産省、JST、東大、東京理科大他との協力）

(3) 輸出管理、国際協力

①輸出管理小委員会

外為法リスト規制案への意見応募と検討、米国輸出規制・有害物質輸出管理規制情報への対応などを実施。

②国際協力小委員会

ベトナム国家大学（VNU）ラボ設置のデモ機への各社個別対応確認をもって小委員会は解散。

(4) 中堅若手人材育成ワークショップ開催運営

JAIMA 会員中堅若手人材育成ワークショップを技術委員会と共同で開催。事前課題の設定、講演、グループディスカッション、Q&A、宿題のサイクルで実施。

第二期は6月に終了し、二期目の振り返り後、第三期を10月から開始し第6回まで終了。

<開催実績>

第二期(期間 2023年10月-2024年6月) 受講者：14社21名

第1回 10月4日「経営者から若手へのエール」 島津製作所 中本晃相談役

第2回 11月8日「科学を楽しく、偉人に学び、良書に親しもう」 東京理科大学 藤嶋昭先生

第3回 12月8日「科学技術と国際秩序」 東京大学 鈴木一人先生

第4回 1月25日「カーボンニュートラルの現状と課題」 国研) 産業技術総合研究所 西尾匡弘先生

第5回 2月19日「量子コンピューターの基礎から最前線まで」 東京大学 武田俊太郎先生

第6回 3月26日「半導体産業のサプライチェーンを支える上流側産業の重要性と大学の役割」

広島大学 寺本章伸先生

第7回 4月17日 「バイオ産業支援市場と理化学機器ビジネスを探る」 ライフサイエンス小委員会
岩瀬アドバイザー
第8回 5月10日 「データ・ロボット駆動科学の世界的潮流と将来展望」 東京大学 一杉太郎先生
第9回 7月12日 成果報告会

第三期(期間 2024年10月-2025年6月) 受講者：18社31名

第1回 10月25日 「データサイエンス、インフォマティクス、ロボット技術」 東京大学 一杉太郎先生
第2回 11月19日 「分子地球化学: 化学種分析に基づく宇宙・地球・環境・資源の理解」
東京大学 高橋嘉夫先生
第3回 12月20日 「米中对立の方向性」 東京大学 鈴木一人先生
第4回 1月23日 「機械学習概論」 東京大学 小林亮太先生
第5回 2月28日 「ダイヤモンド半導体デバイスの最近の進展:表面・界面分析がどのように貢献したか」
佐賀大学 嘉数誠先生
第6回 3月26日 「生成AIからフィジカルAIへ: AIの進化が変革する科学技術産業の未来」
大阪大学 栄藤稔先生
第7回 4月23日 「バイオ研究支援市場と理化学機器ビジネスを探る」 ライフサイエンス小委員会
岩瀬アドバイザー
第8回 5月29日 「経営者から若手へのエール」 堀場製作所 堀場厚会長
第9回 7月12日 成果報告会

8. 医療機器委員会

(1) 医療機器関連他団体との連携

①一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）各種委員会および関連WG活動

医機連の各種委員会および関連WG活動に参画し、会員会社に情報・資料を配布した（5回）。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告。

（医機連）と広報委員会・魅力発信部会メンバーの体制強化に関する意見交換を実施。医療機器委員会から（医機連）広報委員会へ1名参画開始。

②一般社団法人日本臨床検査薬協会（臨薬協）とのIVD-MD会議開催等

- ・臨薬協とのIVD-MD連絡会議は、会議のあり方を協議した結果、基本的には休会とすることを決定。新たな議題がある場合にはメンバーを招集して会議開催する運用とするため体制は維持する。IVD地位向上WGを開催（4回）し、施策を審議。
- ・IVD-MD地位向上WGの活動として、「がんゲノムと臨床検査」のテーマで国立がんセンター中央病院 角南先生の講演動画を1/10より配信開始。
- ・技術委員会 JAIMA サマーサイエンススクールに参加（2024.7.25）

③3団体動物関連委員会合同会議開催等

- ・臨薬協および一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）との3団体動物関連委員会合同会議を開催（6回）し連携強化を図った。
- ・2024年度 動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会(Web 配信)を開催、11/27～12/27にWeb配信済、計147名が参加。

(2) 臨床検査の標準化

①装置コード表改訂

- ・公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援する装置コード表 web システムを運営して、2024 年春、冬の改訂を実施し、JAIMA の HP に公開した。
- ・装置コード表 web システムの操作性等の改善を継続対応中。また、セキュリティ強化対策についても実施予定(2025 年度)。

②国内標準化活動

体外診断機器の分野での国際整合 (JIS 化) に貢献するため、海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行った。

- ・安全・EMC 規格小委員会を開催。(2 回)
- ・IVD 向け EMC 国際規格である、IEC61326-2-6 Ed.4 の FDIS 版を審議中。

(3) 国際活動

①国際小委員会を開催し、国際政策・アジア WG 等の情報を提供した。(5 回)

8 月に台北で開催された GHWP TC Joint Meeting に 1 名が参加、最新情報を会員に提供した。

②ISO/TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) /WG3 の国内検討委員会に公益社団法人日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) を通じて委員 1 名を派遣し、10 月に行われた総会に参加、ISO の開発や改訂についての最新情報を会員に提供した。

ISO/TC210 (医療機器の品質マネジメントシステム) の国内検討委員会、国際規格推進委員会に委員 1 名を派遣、最新情報を会員に提供した。

③欧州の IVD 規制情報を得るため、5 月と 10 月に開催された GDA (Global Diagnostics Alliance) 会議に参加、最新情報を会員に提供した。

(4) ライフサイエンス・イノベーションへの取組み

例年実施していた診断技術に関する勉強会は今年度は見送りとした。来年度の進め方については検討を継続。

(5) 公正取引の徹底

①分析工支部として委員会を開催し、コロナ禍での新しい考え方の相談等公正取引の各種情報を提供した。特に、医療機器販売にかかるコンプライアンス事例の紹介と法令順守の徹底を繰り返し会員企業に周知した。(9 回)

②JACLaS 展示会ブース出展 (10 月)、質疑応答・資料配布を実施。

③公取協分析工支部にて公正競争規約勉強会を 2 月に開催、過去最高の 333 名の参加があった。

9. 広報委員会

JAIMA の認知度/知名度向上および会員サービス向上を目的として、JAIMA の各委員会や事務局と連携し、(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動、(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」の発信、(3) 「JAIMA Season」の定期発行、(4) JAIMA 情報の外部発信、(5) 国内外メディア対応等を通じて、JAIMA および JASIS 情報の外部発信を実施した。

(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動実施

- ①会員向けおよび対外向けにニュース・イベントなどのトピックスを 53 件（和英合計）掲載。
- ②JAIMA が行うセミナー情報などを WEB・メルマガを通じて会員向けに発信

(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」発信

- ①2015 年 7 月 2 日創刊、月刊発行を継続中。（2024 年度末で通算 115 号）
- ②法規制の動向、各種セミナー開催情報等や JAIMA の取組みを会員に継続的に情報提供

(3) 「JAIMA Season」の定期刊行

- ①定期刊行（四半期 1 回）により、工業会の内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信
- ②特別企画「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を 2018 年から連載。
 - ・各分析機器が活躍する事例を紹介するコンテンツで、生活に近い分野や産業発展における分析機器の役割に関する解説記事。JASIS トピックスセミナー講演者を中心に工業会内外の識者による執筆を調整。

(4) JAIMA 情報の外部発信

- ①プレスリリース実績(当年度 4 月～3 月)：プレスリリース件数 16 件（前年 17 件）、メディア掲載数 1,326 件（前年 1,481 件）、広告換算金額 61,315K 円（前年 40,923K 円）。
 - アジア向け、北米向け英語プレス 2 件を含む。
 - *メディア掲載数、広告換算金額はいずれも「@press（アットプレス）」調べ
- ②JASIS 広報事務局と連携し、JASIS（幕張）にて記者会見を実施。
 - （記者会見参加メディア数：17 社 24 名）（昨年 24 社 29 名）
- ③ JAIMA 主催イベントや JASIS トピックスの発信タイミングを調整しながら、年間通じてメディア発信を実施。

(5) 国内外メディア対応

- ①国際委員会との連携により SNS (LinkedIn) のコンテンツ掲載を継続的に実施することで JAIMA の海外へのパフォーマンスを強化。24 年上期 58 件下期 26 件（昨年度実績計 52 件）の投稿をサポートした。また、フォロワーは 572 名（上期時点 500 人）。

(6) 『工業会案内』（和/英）

『工業会案内』英文版改訂完了。次年度、和文の改訂・発行にむけ準備。

10. 展示会委員会

JASIS の開催を通じ、JAIMA の国内外プレゼンスの向上、業界発展に貢献することを目的として、次の事業を実施した。

1) JASIS 2024 開催 9月4日(水)～6日(金)

開催会期 2024年9月4日(水)～9月6日(金) 幕張メッセ

2024年7月～10月 JASIS WebExpo[®]

実績(目標値): 来場者数(実展示+JASIS WebExpo[®] 合計): (38,000人)

幕張メッセ 来場者数: 21,918人(24,000人)

WebExpo 来場者数: 31,169人(14,000人)

出展小間数: 1,214小間(1,200小間)、

出展社数: 407社(400社)

JASIS 2024 では更に高い目標を設定し、目標達成に向け出展社・来場者共に有益な企画を立案。リアルでしか伝わらない使用感・操作感・サイズ感等を実感・体感いただくべく、今回も「Come Touch JASIS」をキーワードとして取組む。加えて、時間・場所を問わないオンラインの強化を図るため、WebExpo も一新し、リアルと Web の相乗効果を狙う展示会として実施した。また主催者からのメッセージを表現し、社会課題の解決を意識した企画を実現。集客力のあるトピックスセミナーを継続し、「カーボンニュートラル、循環経済、環境(汚染)、ライフサイエンス、食の課題、LabDX、プロセス管理」の7つのトピックスに拡大。更に JASIS 2024 で拡充する JASIS スクエアと連携させ、魅力的な企画開催を実現し、新市場を含めた来場者増加に繋げた。

① トピックスセミナー 聴講者 2,904人(目標値 3,400人)

社会課題の解決を意識した「カーボンニュートラル、循環経済、環境(汚染)、ライフサイエンス、食の課題、LabDX、プロセス管理」の7つのトピックス(全17セミナー)を実施。定番の日本薬局方や環境規制関係では定員をオーバーする状況で、DX 関連でも昨年以上に聴講者が増えてきている。全体的には約70%の参加率を誇るトピックスセミナーを以降どのように進化させていくか、また各種セミナー等とのスケジュール調整も今後の課題。

② 新技術説明会 聴講者 11,652人(昨年 9,884人)

全312テーマ(昨年261テーマ)にて実施。聴講者も合計11,652人(昨年9,884人)と昨年に比べて1,768人増。順調に数字を伸ばしてきているが、1発表あたりの聴講者数は0.6人減少。発表テーマ数はもどつつあるが、聴講者数が伸び悩む状況。2025年は各社幅広く発表をしてもらうために「出展社セミナー」と名称変更を実施し、活性化を促す。

③ JASIS スクール 聴講者 1,927人(各講演平均 214人)

社会課題解決に向けた人材育成・教育の場として新企画の JASIS スクールを実施。全9テーマを実施し、事前申し込み時点では全て講演が完売。定員200名のところ立見での聴講が8割となった。2025年も引き続き「教育の JASIS」をテーマに人材育成分野でも活動を定着させてゆきたい。

④ スタートアップ、JASIS コラボレーション

トライアルにて実施したスタートアップであったが、思った以上に各ブースへ来場者が訪問しており、出展社からも次回も参加したいという企業が半分ほどあった。各関連団体との連携をしながらスタートアップ企画も本格的に実施してゆきたい。

JASIS コラボレーションでは 5 団体との連携を実施。文科省や学振興会など各団体にあったシンポジウムを実施。JASIS をイノベーションの場として今後も継続予定。

⑤ WebExpo 7月1日(月)～10月31日(木) 来場者数：31,169人(昨年14,000人)

今年度よりオフィシャルサイトと WebExpo を統合し、より利便性を高めたサイトへ改修を実施。情報入手手段としても有用性が高いサイトでもあるので、継続して見やすさ、使いやすさ、分かりやすさを追求してゆく。アクセス数も 31,169 人と一気に伸びており、オフィシャルサイトとの統合結果がでている。ここからさらにブラッシュアップをかけ行く予定。

2) JASIS 関西 2025 開催 2025 年 1 月 29 日 (水) ～31 日 (金)

会期：2025 年 1 月 29 日 (水) ～31 日 (金) 10:00～17:00

会場：グランキューブ大阪 (大阪府立国際会議場) 3 階展示会場、10 階セミナー会場

実績 (目標値)：来場者数 4,023 人 (5,000 人)

出展社/小間数 105 社/188 小間 (100 社/179 小間)

3 回目となる「JASIS 関西 2025」を 2025 年 1 月 29 日 (水) ～31 日 (金) の 3 日間、大阪市のグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)にて開催。開催規模は一般小間 105 社 188 小間とすべて埋まり、総来場者こそ目標の 5,000 名には届かなかったが、来場者 4,023 名と前回 2023 年の 3,209 人から約 25%増加し、コロナ前の 2019 年 (4,038 名) とほぼ同等にまで戻ってきました。またトピックスセミナーに関しても 1,295 名と前回より 10%増加。JASIS のブランドを関西でも定着してきたように感じる。

3) 「JASIS 2025」の開催準備

五感で感じる「ホンモノ」の学び場をコンセプトに、五感をフル活用して「ホンモノ」の知識と技術を体験できる展示会を目指す。来場者感覚を研ぎ澄まし、各種製品や技術、ソリューションに触れることで新たな発見を促します。またオンライン Web 展示会の「WebExpo」を併用することで、科学・分析機器業界にたずさわる方々の満足度をさらに高め、社会課題や最先端科学、分析機器業界の発展のために業界全体の「ホンモノ」の学び場を提供する。2024 年 10 月以降、JASIS 2025 の開催準備を実施。

会期期間：2025 年 9 月 3 日 (水) ～5 日 (金)

開催場所：幕張メッセ国際展示場 4 ホール (5, 6, 7, 8 ホール)

1.1. 統計委員会

(1) 生産高、輸出高、輸入高統計データ

正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高統計データを調査し、統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し各社にフィードバックするとともに、結果を理事会に報告し、会報に掲載した。

(委員会開催日：2024 年 5 月 23 日、8 月 21 日、11 月 8 日、2025 年 2 月 21 日)

(2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

受注統計小委員会において以下の JAIMA-ALDA-EUROM II 合同の受注高四半期統計に参加。

①主な集計項目：ア) 世界 6 地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界 6 地域における対象機種を受注金額および台数

②地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の6地域

③13機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS、XRF (WDX)、XRF (EDX)、参加企業：14社

1.2. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙4に示す。

IV. その他の事業活動概要（事務局等）

1. 行政機関諸施策および他団体事業への協力

- (1) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、メール送信、会員向け Web 掲載、会報掲載により会員に周知。
- (2) 一般財団法人安全保障貿易情報センター（CISTEC）の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加。
- (3) 日本工業標準調査会（JISC）の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣。
- (4) 別紙5のとおり、他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等に協力。
- (5) 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が JASIS2024 会場（国際会議場）にて開催した「最先端計測分析技術と研究開発トランスフォーメーション」に関する産学意見交換会」を共催。
[参加者 19 名]（文部科学省科学技術・学術政策局長、JST 未来社会創造事業「共通基盤」領域運営統括、未来社会創造事業「大規模プロジェクト型」研究実施者、計測分析機器工業会関係者他参加）
- (6) 岩田経済産業副大臣と産業機械6団体との価格転嫁の徹底等の取引適正化に係る懇談会が2024年4月5日に経済産業省にて開催され、高木由充副会長（当時）が出席。部品調達を国内外に広く依存しており協力企業との適正取引推進の重要性は十分認識、中堅企業に資金的しわ寄せが生じない施策の要望、基盤技術産業としての分析機器産業の認識・振興政策が重要、の3点を発言。

2. 分析機器に関する生産性向上仕様等証明書の発行

中小企業経営強化税制制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行。

[2024年度証明書発行件数 269件]

3. 中小企業省力化投資補助金へのカテゴリ登録申請

人手不足に悩む中小企業等がその解消のために導入する省力化製品の導入事業等の経費の一部を国が補助する制度の対象カテゴリに「自動分析機器」を追加するための申請を実施。

（現在、独立行政法人中小企業基盤整備機構において審査中。）

4. 環境省「ESG リース促進事業」に分析機器を対象機器として追加

環境省補助金事業「脱炭素社会の構築に向けた ESG リース促進事業」対象製品となっている分析機器の機種登録を実施。[775 機種登録済]

5. 「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」の改定、フォローアップ調査実施

・「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」の改定（2024.6月）

・「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」のフォローアップ調査（2024.11-12月）

6. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

(1) 国際法定計量機関（OIML）関係委員会への協力

OIML 国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加。

(2) 一般社団法人日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加。

(3) 経済産業省計量行政審議会計量標準部会に委員を派遣した。

7. 分析機器に関する製品安全化事業（団体 PL 保険制度実施）

(1) 海外を対象とする「海外団体 PL 保険制度」の参加会員 7 社

(2) 国内を対象とする「国内団体 PL 保険制度」の参加会員 3 社

(3) CGL 保険（企業総合賠償責任保険）の参加会員 13 社

8. 生産高、輸出高、輸入高統計調査

会員を対象に生産高、輸出高、輸入高統計調査を実施し、四半期毎と年度毎に集計。年度ごとの集計結果は工業会 Web Site にて発表。

9. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施。

10. 後援・協賛名義等の使用承認

2024 年度は、21 件の展示会、セミナー、シンポジウム等に対し、当工業会の後援・協賛・共催名義等の使用を承認した。

以上

別紙1 会員の異動

1. 入会：9社

(1) 正会員 3社

2024年4月1日 東京貿易メディシス株式会社

2024年4月1日 日本光電工業株式会社

2024年4月1日 横河電機株式会社

(2) 賛助会員 6社

2024年4月1日 ゲステル株式会社

2024年5月1日 トヨタ自動車株式会社

2024年7月1日 株式会社日立製作所

2024年7月1日 三菱ケミカル株式会社

2024年11月1日 株式会社ウエルコ

2024年11月1日 株式会社キアゲン ※再入会

2. 退会：4社

(1) 正会員 2社

2024年5月31日 株式会社マイクロテック・ニチオン

2024年12月31日 ナノフォトン株式会社

(2) 賛助会員 2社

2024年6月30日 株式会社キアゲン

2025年3月31日 ノバ・バイオメディカル株式会社

3. 会社名変更：3社

(1) 賛助会員 3社

2025年1月1日付 パーキンエルマー合同会社／旧：PerkinElmer Japan (同)

2025年2月1日付 キヤノンメディカルダイアグノスティックス(株)／旧：ミナリスメディカル(株)

2025年3月1日付 ローツェイアス株式会社／旧：(株)イアス

別紙2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

2025年3月31日現在

会 長	足立 正之	株式会社堀場製作所 代表取締役社長
副 会 長	上田 輝久	株式会社島津製作所 代表取締役会長
副 会 長	大井 泉	日本電子株式会社 代表取締役社長兼 CEO
副 会 長	飯泉 謙	株式会社日立ハイテク 執行役員
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会
理 事	石丸 元国	日東精工アナリティック株式会社 取締役
理 事	岸本 京子	京都電子工業株式会社 代表取締役社長
理 事	小林 久子	ベックマン・コールター株式会社 代表取締役
理 事	佐藤 賢治	日本分光株式会社 代表取締役社長
理 事	真田 佳幸	株式会社リガク 取締役専務執行役員
理 事	東海林 正男	東亜ディーケーケー株式会社 取締役副社長
監 事	植田 成	公益社団法人日本臨床検査標準協議会 事務局長
監 事	長見 善博	ジューエルサイエンス株式会社 取締役社長
監 事	松本 哲哉	理研計器株式会社 代表取締役社長
相 談 役	栗原権右衛門	日本電子株式会社 相談役
相 談 役	中本 晃	株式会社島津製作所 相談役
相 談 役	堀場 厚	株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	7回
調達小委員会	1回
2. 技術委員会	12回
調査小委員会	35回
企画運営小委員会	12回
ライフサイエンス小委員会	12回
3. 環境委員会	12回
技術検討分科会	12回
(他団体合同委員会：カテゴリ8・9関連工業会連絡会)	4回)
4. 標準化委員会	6回
国際標準化対応委員会（計測分析データ共通フォーマット）	4回
国際標準化対応委員会（位置合わせ手順）	5回
質量測定分科会	3回
JISK0124 高速液体クロマトグラフィー通則改正原案作成委員会	2回
JISK0139 レーザーアブレーション ICPMS 分析通則制定原案作成委員会	4回
5. 労務委員会	6回
6. 知的財産委員会	5回
実務・調査小委員会	10回
商標小委員会	3回
7. 国際委員会	12回
輸出管理小委員会	4回
国際協力小委員会	2回
8. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	4回
IVD-MD 会議（(一社)日本臨床検査薬協会との会合）	5回
IVD-MD 地位向上WG（同上）	4回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	6回
医療機器国際小委員会	6回

動物医療機器3団体合同会議	6回
9. 広報委員会	12回
会報編纂小委員会 JAIMA Web 小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回
10. 展示会委員会 (JASIS 委員会)	12回
11. 統計委員会	4回
	以上

別紙 4

2024 年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名（所属）
・企画戦略会議	正	金山俊彦（日本電子）
	副	森本茂樹（島津製作所）
	〃	中庸行（堀場製作所）
・展示会企画戦略小委員会	主査	中庸行
	副主査	森本茂樹
	〃	傍嶋 真
・調達小委員会	主査	西中 文彦（島津製作所）
・技術委員会	正	杉沢寿志（日本電子）
	副	八谷宏光（東亜ディーケーケー）
・企画運営小委員会	主査	杉沢寿志
・グローバル交流小委員会	〃	村上岳（島津製作所）
	副主査	濱上郁子
・技術普及調査小委員会	〃	八谷宏光⇒杉沢寿志
	副主査	赤尾賢一（日本分光）
	〃	角田博之（日本電子）
・調査小委員会	主査	上野楠夫（堀場製作所）
	副主査	粉川良平（島津製作所）
・ライフサイエンス小委員会	主査	神田浩幸（リガク）
	副主査	野口慎太郎（堀場製作所）
・環境委員会	正	寺倉生剛（島津製作所）
	副	三枝宏彰（シスメックス）
	〃	長谷川史憲（日本電子）
・技術検討分科会	主査	佐藤純也（理研計器）
・標準化委員会	正	永田淳（島津製作所）
	副	岩佐真行（日立ハイテクサイエンス）
・労務委員会	正	渡邊文平（日本分光）
	副	石川秀寿（島津製作所）
	〃	大澤 暁（リガク）
・知的財産委員会	正	中野博司（島津製作所）⇒山西孝志（日本分光）
	副	山西孝志⇒久留真一（シスメックス）
	〃	生沢誠幸（日本電子）
・知的財産調査・実務小委員会	主査	橋本隆弘（堀場製作所）
・商標小委員会	主査	瀬尾友妃子（堀場製作所）

<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会 ・輸出管理小委員会 ・国際協力小委員会 	<p>正 副 〃 〃</p> <p>主査 〃</p>	<p>林 奨（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレント・テクノロジー） 竹本幸利（島津製作所） 塩野宗一（日本電子）</p> <p>原圃 聡（島津製作所） 八谷宏光（東亜ディーケーケー）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器委員会 ・薬事法小委員会 ・標準・規格小委員会 ・安全・EMC小委員会 ・医療機器業公正取引協議会分析工支部 ・医療機器国際小委員会 ・動物医療機器小委員会 ・IVD-MD地位向上WG ・SMBG認証基準制定WG 	<p>正 副 〃</p> <p>主査 〃 〃 〃</p> <p>正 主査 〃 〃 〃 〃</p>	<p>折橋敏秀（日立ハイテク） 西村勲（日本電子） 諸岡直樹（島津製作所）</p> <p>関口幸児（HOYA） 中山秀喜（シスメックス） 山下敦史（アークレイ）</p> <p>丹治亘博（堀場製作所） 関口幸児（HOYA） 原 幸寛（リガク） 永井剛成（日立ハイテク） 福島孝士朗（アークレイ）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会 ・会誌編纂小委員会 ・Web小委員会 ・プレスリリース小委員会 	<p>正 副 〃</p> <p>主査 〃 〃</p>	<p>伊藤裕基（日立ハイテク） 大嶽義浩（堀場製作所） 野口美香（島津製作所）</p> <p>渡邊康雄（理研計器） 野口美香 大嶽義浩</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会委員会 <p>(JASIS委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出展社小委員会 ・来場者小委員会 ・主催者企画小委員会 ・Web企画小委員会 ・トピックスセミナーWG ・Web改革WG ・JASIS関西WG 	<p>正 副 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃</p> <p>主査 〃 〃 〃 〃 〃 〃</p>	<p>生野 朗（日本電子）⇒傍嶋 真（堀場製作所） 杉田隆通（島津製作所）⇒大島恵美子（島津製作所） 五十嵐真人（日立ハイテク） 遠藤 聡（JSIA,ダルトン） 渡辺 徹（JSIA 佐藤真空）</p> <p>杉田隆通⇒大島恵美子 渡辺 徹 五十嵐真人 遠藤 聡 杉田隆通⇒傍嶋 真 傍嶋 真 傍嶋 真</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・統計委員会 ・受注統計小委員会 	<p>正 主査</p>	<p>須藤深雪（日立ハイテクサイエンス） 遠藤政彦（アジレント・テクノロジー）⇒竹本幸利（島津製作所）</p>

別紙5 参加している他団体事業活動等

1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語および信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) プラスチック関係 JIS 委員会 日本プラスチック工業連盟
- (4) ボイラー関係 JIS 委員会 (一社) 火力原子力発電技術協会
- (5) 透析液濃度測定装置認証委員会 (一社) 日本血液浄化技術学会
- (6) 日本薬局方原案検討委員会 (理化学試験法、物性試験法、天秤 WG)
(独) 医薬品医療機器総合機構
- (7) 下水試験方法改訂調査専門委員会 (公) 日本下水道協会
- (8) ソーダ関係 JIS 改正部会 (一社) 日本ソーダ工業会
- (9) 試薬協会規格委員会 (一社) 日本試薬協会
- (10) 流れ分析法を用いた水質試験方法 JIS 改正 (一社) 日本環境測定分析協会
- (11) 産業標準作成委員会 (一財) 日本規格協会
- (12) 標準物質認証委員会 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- (13) 日本産業標準調査会化学・環境技術専門委員会 経済産業省
- (14) 計量行政審議会計量標準部会 経済産業省

2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

- (1) ISO 関係委員会
 - ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社) 日本ゴム工業会
 - ②TC47 (化学) (一社) 日本化学工業協会
 - ③TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
 - ④TC146 (大気質) (一社) 産業環境管理協会
 - ④TC146 (室内大気測定) (一財) 建材試験センター
 - ⑤TC147 (水質) (一社) 産業環境管理協会
 - ⑥TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
 - ⑦TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) (公社) 日本臨床検査標準協議会
 - ⑧TC229 (ナノテクノロジー) (一財) 日本規格協会
 - ⑨TC298 (レアアース) (一社) 新金属協会
 - ⑩TC345・PC348 (重要鉱物) (独) エネルギー・金属鉱物資源機構
- (2) I E C 関係委員会
 - ①TC65/SC65A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
 - ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会、技術開発委員会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)

- (5) (公社) 日本分析化学会 (理事会)
- (6) (公社) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (公財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (10) (一社) 日本臨床検査薬協会 (委員会)
- (11) 日本学術振興会 R053 設計・計測・解析の協調プラットフォーム委員会 (委員会)